

2017年 **11**月 **5**日(土) 13:30-17:30

主催：分離派100年研究会

会場：東京大学本郷キャンパス工学部1号館15号講義室

定員：100名(先着順)

分離派建築会はなぜ結成され、なぜメディアに掲載されて「分離派式」と呼ばれるほどに有名になったのか。これまで指摘されてきた自己の創作の称揚、また帝大内の主流「構造派」への対抗ばかりでなく、商業との繋がりを考えられないか。——この見地から、分離派と博覧会、とくに1922年平和記念東京博覧会における分離派メンバーが設計したパヴィリオンとこれまでの博覧会パヴィリオンの比較を行い、また同博覧会に出展された「文化村」住宅、さらには博覧会場を飛び出して都市の享楽の場へ与えた影響を、建築史、美学芸術学、日本美術史などの立場から考察を交わし、分離派建築会が当時ブームとなった原動力を探りたい。

開 会： 勝原基貴(国立近現代建築資料館)

趣旨説明： 天内大樹(静岡文化芸術大学)

【第1部】

各論発表(1) | 博覧会パヴィリオン編

河東義之(小山工業高等専門学校)

ゼツェッション(分離派)の導入とその意義

天内大樹(静岡文化芸術大学)

平和記念東京博覧会の「分離派式」

各論発表(2) | 住宅展示編

内田青蔵(神奈川大学)

「文化住宅」を生み出した平和博の「文化村」

橋爪節也(大阪大学)

大阪のイマジジュリィにおける分離派的なるもの
——盛り場と沿線モダニズム——

【第2部】 ディスカッション

河東義之・天内大樹・内田青蔵・橋爪節也

モデレーター： 田所辰之助(日本大学)

閉 会： 田路貴浩(京都大学)

連続シンポジウム 第3回 メディアと建築家 ——博覧会と商業主義のただ中で 分離派建築会誕生100年を考える

参加費無料 / 申込不要

□ 問合せ先：

京都大学 田路研究室 門間光

E-mail: ta-momma@archi.kyoto-u.ac.jp